

令和 5 年度 園評価書

園番号 8

園名

田町こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心も体も 元気な子	心と体が動き出し 考えを伝え合う	色々なことに興味を持ち、「なぜ?」「どうして?」と試し、「もう1回」「明日もやってみよう」と遊びが継続されている	・毎朝、園庭の遊びだしの環境を整える (コーナー作り) ことで、試そうとする姿が見られ遊びの継続につながった	B	B	・安心して預けることができている ・季節に合わせた工夫がされ、節分などの伝統文化に触れる機会に家庭を巻き込みながら行っている様子が見られた	・子どもたちのやってみようの思いを見逃さないようにすることで、どのような環境が必要なのかをわかり、整え、遊びが広がっていくので、継続して園庭環境作りを行っていく ・遊びの中で異年齢とのかかわりが少しずつ持てるようになってきているが、より縦のつながりを深めていく機会を作っていく ・計画的に散歩など園外での活動を増やし、自然に触れ遊ぶ機会を作る
		自分の考えを表現したり相手の考えを聞いたり共感したりしながら遊ぶ経験を積み重ねている	・少人数グループの中で思いを伝え合う機会を作ることにより、思いを出したり、相手の意見に耳を傾けたり、共感しながら遊ぶ経験を積み重ねている ・友だちの遊びや作品など「いいね」と認めることが増えてきている	B	B		
		友だちや保育者と一緒に体を動かす心地よさを感じている	・ドッチボールや鬼ごっこ等集団遊びの体験から、保育者や友だちと誘い合って体を動かして遊ぶ姿が見られるようになってきている ・築山や可動式遊具を環境構成に取り入れたことで、自然に体を動かせる機会が増え心地よさを感じることができている	A	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験などを十分に把握し、一人一人に合わせた適切な援助を行っている	・公開保育や月案検討、日々の振り返りを行うことで、子どもの発達や経験を把握、職員間で共有できるようにしている ・個々の特性や発達に合わせたかかわりを意識し、適切な援助を行うことができるようにしている	B	B	・事故の報道があるところにはばかり目が向けられ、こども園の良さに目が向かなくなってしまうところがあるが、日々の保育の中で、子どもたちが安心して遊ぶことができる環境や、楽しむことができる工夫が要所に見られた ・職員の健全な心と体があつてこそ、子どもたちが安心安全に遊ぶことができる。時間外勤務減に配慮したワークライフバランスが大切になってくると思う ・子どもの (保育・行事) の取り組み職員の (研修・環境づくり) など要所要所に工夫が感じられる	・一人一人にわかりやすい生活空間を意識し、必要に応じてみてわかる環境 (可視化) を整える ・引き続き、早番・遅番など延長保育時間にも子どもが楽しめる、遊び環境が充実する取り組みを行う ・自然と触れ合える場や遊びに取り入れることができるような環境の整備 ・年齢や発達、その場の状況に合わせた避難方法の見直しを行う。避難ルートの確認と予想される状況の周知。ヒヤリハットの回収率の向上 ・ハンカチ携帯の習慣が身につくよう、引き続き伝えていく ・手洗い・うがいの見取りを行い、積み重ねることで習慣化していけるように働きかける ・ハムタロウの会へ支援担当以外の参加機会をつくる ・職員会議で支援時の現状や支援方法の変化についてや研修報告等こまめな情報の共有時間を確保していく ・外部講師から学ぶ機会を作る ・分掌の話し合いの中で役割を確認し、スムーズに連携していけるようにしていく ・お願いボードや会議を通して各分掌の進捗状況を共有する ・もくトークの活用。様々な職種の職員が参加しやすい場を作り、より多方面の視点から子どもたちの様子、育ちや環境改善のアイデアなど共有ができるようにする
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	個々の生活リズムの違いを踏まえて、子どもたちが主体的な生活を送れるようにしている	・個々の生活リズムや年齢発達、体調に配慮しながら、安心して生活ができるようにしている ・子どもたちが活動に積極的に参加できるように、登園時間など生活リズムを整える大切さを家庭にも働きかけている	B	A		
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの発想や発見に気付き、楽しんだり工夫するための環境が用意されている	・子どもの遊びの様子を捉え、可動式遊具や自由に選び使うことができる廃材BOXを準備したり、どうしたら子どもの発想を実現できるのか考えたりしながら環境を整えている ・遊び出しの環境を整えるための職員配置を行っている	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	様々な災害を想定した訓練やヒヤリハットを集める中で、全職員が状況に応じた確かな行動ができている	・浸水災害の訓練や備えを繰り返し行った ・備蓄の確認、トイレなどの設置、発電機の起動方法の確認を行い、災害時に対応できるようにしている ・ヒヤリハットを集め、気を付けるポイントを職員に発信している	B	A	・子どもの (保育・行事) の取り組み職員の (研修・環境づくり) など要所要所に工夫が感じられる	・ハンカチ携帯の習慣が身につくよう、引き続き伝えていく ・手洗い・うがいの見取りを行い、積み重ねることで習慣化していけるように働きかける ・ハムタロウの会へ支援担当以外の参加機会をつくる ・職員会議で支援時の現状や支援方法の変化についてや研修報告等こまめな情報の共有時間を確保していく ・外部講師から学ぶ機会を作る ・分掌の話し合いの中で役割を確認し、スムーズに連携していけるようにしていく ・お願いボードや会議を通して各分掌の進捗状況を共有する ・もくトークの活用。様々な職種の職員が参加しやすい場を作り、より多方面の視点から子どもたちの様子、育ちや環境改善のアイデアなど共有ができるようにする
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	手洗いやうがいなど見取りを行い、繰り返し知らせていくことで、健康に過ごすための基本的な生活習慣が身についている	・乳児期より手洗いで汚れが落ち気持ちよさを味わう経験を重ねている。手洗いをみとることで丁寧に洗う習慣が身につくようにしている	B	B		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	全職員で共通理解をするための方法や会議の取り組み方を工夫し、支援の必要な子の特性や関わり方を園全体で共有する	・職員のシフトの体制を乳児・幼児合同行うように変更したこと で、共通理解を深め、支援を必要とする子の特性や関わり方の共有につながっている ・外部講師を招き、支援方法について学んだ	B	B		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	責任をもって分掌に取り組みむと同時に、連携をとり、全員で進めていく	・分掌の仕事や責任をもって取り組んでいる ・指示が偏ったり、連携不足があり、リーダーの負担が大きくなっていることがある	B	B	・今年度は世代交流会や花育教室などの地域交流行事が復活し、子どもたちと触れあいかわいらしい姿を見ることができた。今後も行ってほしい。 また、地域のパパさんバンドもあるので機会をいただけたら演奏に来ます	・見やすさを考慮した掲示場所の検討をする ・コードモンの活用 ・ボードのコメントなど保護者にどのような活動をしているのか、活動の意図が伝わるようにしていく ・園児と小学生の交流を計画していく ・末広学園での取り組みを職員に周知する ・公開授業や近隣園の公開保育など職員交流の機会に引き続き参加していく ・おしゃべりサロンでは園児との交流機会が増えるよう計画する ・地域資源の活用 ・園庭開放や地域との交流機会を増やしていく
6 研修	(1)研修体制の充実	公開保育を実施し、「もう1回」と次の日にも遊びがつながる環境作りについて話し合い、環境改善を行っている	・事前研修でそれぞれが「ねらい」を考えてみることで保育内容の理解や計画の立て方の演習につながった ・公開保育を行い、その学びを日々の「もっとやりたい」思いにつながる環境作りに活用している	B	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの心が動く瞬間をとらえ、子どもの考えや思いに合わせた環境作りをしている	・子どもの心が動く瞬間をとらえ「やってみよう」「やってみよう」と思える環境を作るよう努めている ・日誌、記録で振り返り、次の環境作りを行っている ・もくトークを利用し子どもの姿や園庭環境の共有を行っている	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	登降園時に様子を伝えたり、園での取り組みをボードやドキュメンテーションで保護者に発信し、子どもの育ちを共有している	・参観会や発表会の時など、子どもたちの作品をできるだけ保護者の方が目にしやすい場所に掲示している ・写真を取り入れながらボードやドキュメンテーションを作成したり、登降園時に様子、育ちを伝えたりしている	A	A	・公開保育や公開授業、末広学園への参加等、近隣の学校と情報共有を行った ・避難訓練の際、番町小学校まで避難を行い、子どもたちが学校の先生を知る機会となった	・園児と小学生の交流を計画していく ・末広学園での取り組みを職員に周知する ・公開授業や近隣園の公開保育など職員交流の機会に引き続き参加していく ・おしゃべりサロンでは園児との交流機会が増えるよう計画する ・地域資源の活用 ・園庭開放や地域との交流機会を増やしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	公開保育、公開授業や事後協議、末広学園に参加。情報の共有を行う。小学校との交流計画を作成し、交流の機会を持っている	・公開保育や公開授業、末広学園への参加等、近隣の学校と情報共有を行った ・避難訓練の際、番町小学校まで避難を行い、子どもたちが学校の先生を知る機会となった	B	B		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	地域と交流する機会をもち、地域の園として親しまれる園作りを行っている (おしゃべりサロン、花育教室、西部生涯学習交流館絵画展参加等)	・おしゃべりサロンには、親身の参加があり交流する場になっている ・今年度は花育教室や世代交流会を再開した ・地域の敬老を祝う会や地域スーパー、交流館での絵画展に参加し地域との交流機会を持つことができた	B	A		